臺灣日日新報 第一万四千四百七十六號 昭和十五年七月一日（月曜日） （第二號）

132572

臺灣新報

本日四頁 一部一錢 臺北市表町一丁目一番地 臺灣日日新報社 電話（三）三〇八〇番 臺北郵便局區內配達 一ヶ月金貳圓

敵の輸血路爆撃

海鷲の活躍狀況

【南昌二十日發同盟】敵國援蔣ルートの一つたる佛印ハノイ、ラオカイ間鐵道に對する我が海鷲の攻撃と並びに之が爆撃に關する敵側の反應に關しては既報の如くであるが、其の後の我が海鷲の活躍狀況は次の如くである。

一、昨年十一月我軍の南寧占領に依り敵の佛印援蔣ルート中最も重要なるハノイ、ラオカイ間鐵道が本年一月一日を期し全面的に運轉を停止するに至つたが、之が爲敵國は同鐵道の修復に全力を擧げ、二月中旬には一應修復を終つたが、我海鷲は之が修復を待ち構へ二月下旬より三月上旬に亘り之が爆撃を敢行し、敵國際ルートたる同鐵道に對し徹底的打撃を與へたのである。

二、又我航空隊は佛印ハノイ飛行場に對しても屢次に亘り爆撃を敢行し、敵機多數を撃墜破し、又ハノイ、ハイフォン、ラオカイ、ランソン、ドンダン、ケップ、ヴィンイエン、ホンガイ、ハイズオン、ヴィンチ、ヤン、ヴィエトトリ、ヴィエンチ、ヤン、ヴィエトトリ、ヴィエンチ、ヤン、ヴィエトトリ、ヴィエ

牡丹崩れず (126)

(案上圖)

竹田敏彥 作

岩田專太郎 畫

一暴風雨の後(一)

ある暴雨の後のうた——

風金を投じた大旅館は、激しい波濤の響と化し、轟然たる怒濤の響上に聳えたつ旅館の窓上旅館は、ますます暴風雨に襲われて、ゆらゆらと揺られて、ぐらぐらと揺れ動く旅館の窓に映る。どんなお客さまも旅館の中にあり、誰がこんな旅館を出ようと思うでしょう——

花嫁は着き、花婿は着へ、他の人々は自由流れて、おおぜいに御祝人には、多額の餞別をさし出す者もあり、わざわざ九州から出てきた旅館もあり、亭主夫妻と共々に、暫くなり暫くなり、生旅館の旅館を訪ねて、歓喜、呼ばれる。食客者の旅館に泊る。旅館人として名を馳った旅館旅館は、主うた来客には、一々お礼に廻らねばならず、また一方では、旅館を訪つて新聞記者へ旅館の顧客に招待し、新聞記者へ旅館の顧客に招待し、新聞記者へ旅館の顧客に招待し、

大宮御所午餐會で
御和かな御情景

御滯京中の皇帝陛下

愈よあす御退京
けふ御名殘りの午餐會

【東京三十日發同盟】皇帝陛下には滯京中の御動靜に就き左の如く發表あらせられた

【東京三十日發同盟】皇太后陛下には御先祖の御靈前に御親拜を終らせられ、畏くも御自身の御手にて御供へ遊ばされた御榊を奉持して御歸還遊ばされ、午後一時十五分皇帝陛下には御參拜遊ばされた

宮城を奉拜して感激にふるへた
——山の青年に聽く——
内地觀光旅行の感想

【臺南電話】臺南州下各郡市の青年團員の内地觀光旅行團は、一行百名、去る廿六日午後一時臺南驛發列車にて出發、同驛前廣場にて、市内各團體代表者の歡送を受けた。

▲參加團員　矢多一生　三團に亙る團員の内地觀光は私共にとつて生れて始めての大きな經驗であつた、宮城の參拜にお參りした時は、感激の餘り自然と頭が下りました、殊に最も感激したことは、あの廣い境内に參拜者が滿ち滿ちて居ながら、あの靜けさ、あの嚴肅さ、全く神の境地に入つたやうな氣がしました、實